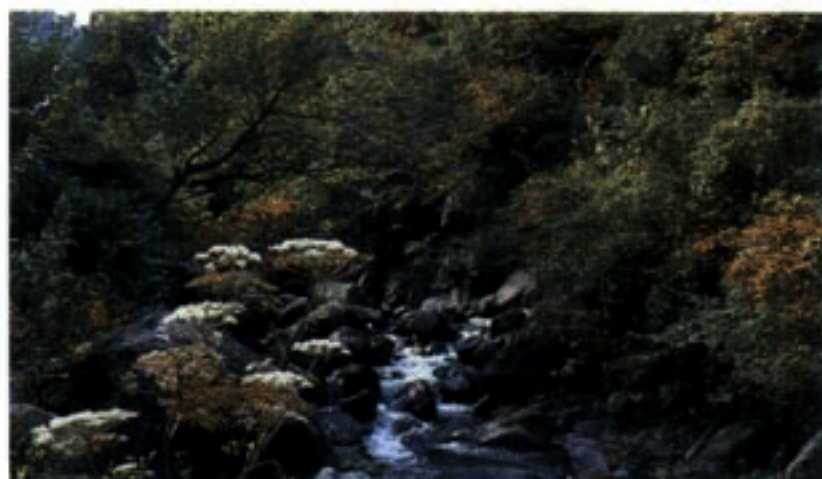


河川・水辺-1

●同じ川でも自然環境ごとに整備は異なる

河川は、流域とその周辺の気候や地形・地質、植生、人間社会等々と強く関わって存在します。このため川の整備に際しては、流域全体を視野に入れ、より地域の生態系に配慮した整備を行うことが必要です。

同じ一本の河川でも上流・中流・下流では水量や流れの速さ、河床の形状が異なり、それに従って生息する生きものも違います。現状の自然環境をいかに保全するかを考慮しつつ、対象とする河川の立地や自然の特性を見極め、それにふさわしい整備を行うことが必要です。



上流域 落差のある瀬と深い淵が連続して現れる。河道には大きな岩が転がり込み、溪畔林で覆われる。水は空気を巻き込んで激しく流れ、イワナやヤマメ、水生昆虫などに十分な酸素を供給する。ヤマセミやカワガラスが採餌に訪れる。



中流域 上流から水とともに流れてくる砂礫が堆積して河原が形成される。流れは穏やかになるが、流量の変動が大きく、河原では、土砂の流出と堆積が繰り返され、陸上植物の侵入は著しく制限される。砂礫底の中流域ではウグイやニゴイ等がみられ、河原にはコサギやコアジサシが現れる。



下流域 流れが非常に穏やかになり、川幅も広がり、流量も多くなる。コイやフナが生息し、水際のヨシ原にはオオヨシキリが繁殖している。河口付近では淡水と海水が入り交じる。



越辺川ビオトープ

建設省荒川上流工事事務所によって、埼玉県川島町と坂戸市を流れる越辺川河川敷の砂利採取跡地に整備されたビオトープ。ビオトープ内の立入を禁止し、イカルチドリの繁殖を妨げないように配慮するなど、豊かな水辺環境づくりへの模索が続いている。